

朝倉彫塑館改修

? なぜこの事業を行っているのですか？

谷中にある朝倉彫塑館は、彫塑家・朝倉文夫氏（☞解説）が約60年間にわたって自宅兼アトリエとして使用していた建物です。朝倉氏の死後、台東区へ寄贈され、現在は区立朝倉彫塑館として一般公開されています。

朝倉氏の邸宅は、池泉や景石で創り上げられた中庭を中心に、その周囲を建築が取り囲む構成になっており、「庭」との一体感に配慮した独特の空間意匠と造形や、本来異質であるはずの西洋建築（鉄筋コンクリート造）と日本建築（数寄屋造り）の要素が違和感なく調和・融合しているところに特徴があります。主要な建造物は、平成13年10月に国有形文化財に登録され、平成20年3月には敷地全体が「旧朝倉文夫氏庭園」として国の名勝に指定されました。

台東区では、名勝としての文化財的価値を高めるとともに、築80年以上経過した本施設の耐震補強と老朽化対策を実施するため、平成21年11月より保存修復工事を実施してきました。

? どのようなことを行っていますか？

平成21年11月より、朝倉彫塑館保存修復工事を実施しています。この工事では、(1) 築80年を経過して老朽化している箇所の修理、(2) 木造部分の耐震性能強化、(3) 朝倉文夫氏が過ごした昭和30年代の姿へ復原、の3つの方針に基づき、文化財としての価値に配慮した工法により、建物の傷んだ箇所等の修繕・耐震補強・外観と内装の復原整備を行っています。

また、文化財の保存修復工事について、区民の方々をはじめ、より多くの皆さんに知ってもらうために、平成22年度～24年度に工事見学会を実施し、合計350名以上の方々に参加いただきました。



工事見学会の様子（アトリエ）



工事見学会の様子（朝陽の間）

? 事業の進み具合はどうか？

【保存修復工事の実施状況】

- 平成21年度 倉庫棟の解体、樹木の移植など
- 平成22年度 アトリエ棟の床板解体、住居棟の耐震補強など
- 平成23年度 住居棟・アトリエ棟・旧アトリエ棟の改修など
- 平成24年度 住居棟・アトリエ棟・旧アトリエ棟の改修、池水の復旧、彫塑の清掃・補修、電気・機械設備工事など
- 平成25年度 敷地境界整備工事、アトリエ棟前庭整備工事など



朝倉彫塑館完成予想図

? 今後はどのように取り組んでいくのですか？

今回の保存修復工事では、晩年の朝倉文夫氏が自ら改修を手掛けた昭和30年代後半の姿をコンセプトに、外観から部屋の壁に至るまで、様々な復原を行っています。

平成25年10月29日のリニューアルオープン後は、建築と庭園が見事に調和する朝倉彫塑館と数々の彫塑作品を通じて、朝倉氏の芸術観を感じていただき、より多くの方々に楽しんでいただけるよう取り組んでいきます。

この事業の実績・決算・予算額は、53ページに記載しています。

■ この事業に関するお問合せは ■

文化産業観光部文化振興課

03-5246-1153

【解説】

朝倉文夫（1883～1964年）

自然主義的な写実描写に徹した緻密な表現姿勢を一貫して保ち続けた、日本を代表する彫塑家です。「大隈重信像」や「墓守」など数多くの彫塑作品を残しており、昭和23年（1948）に文化勲章を受章しています。